

# いなる草

津村明子



3月11日の東日本大震災から早くも半年が過ぎました。

地震直後の大津波、「東京電力」の福島原子力発電所の大事故による放射能汚染と、複雑な大災害となり、政治の無力とも相まって、いまだ復興への道筋が見えずにいます。被災地の惨状は、時間のある限りTVニュースやドキュメンタリーで見ましたが、本当の現場は、切り取られた画面からは想像もつかないものだろうと思っています。

あるテレビの番組で、やっと仮設住宅の抽選に当たってやってきた40歳ぐらいの主婦が、部屋に備えつけられている電化製品の数々……テレビ、エアコン、電気炊飯器、電気冷蔵庫、電気洗濯機などを見て、「やっとこれで人並みの暮らしが出来ます。」と喜んでいる様子を映し出していましたが、私は大変複雑な思いに駆られました。

「原発」は、ニコニコと私たちにオール電化の生活を与え、本当の姿を見せずにいましたが、ひとたび今回のような事故を起こすと、放射能を撒き散らし、広範囲にわたって人も動物も生きることが出来ない空間をつくってしまうものだったのです。

立ち入り禁止区域になった牛舎で、手放さなければならなくなった50頭の牛を前にして、「原発さえなかったら……」と声を上げて泣く畜産家の姿にもらい泣きをしてしまいました。

「チェルノブイリ」や「スリーマイル島」の原発事故の惨事を聞いていながら、他人事と思っていたのが悔やまれます。

電化前の生活を知っている世代の人たちは、もう残り少なくなってきました。太平洋戦争時代でも、都会と田舎では随分日常生活の便利さはちがいました。

<水道> → 井戸水、川の水

<ガスコンロ> → 薪のかまど

<ガストーブ> → 炭やたどんの火鉢、こたつや、湯たんぼなど

電気を使うのは、部屋の照明ぐらいで、「電気をつける」というのが日常語でした。

戦後復興の中で電化は進み、水力発電、火力発電に原子力発電が加わりました。産業の振興、家庭生活の利便性を追い求めて、地震列島といわれる国土に「原発」をたくさん建設してしまったことを見直すのは「今」しかないのです。

2011年9月15日 記  
つむら あきこ (いこ☆る代表)



# いこる草

津村明子



3月11日の東日本大震災から、ちょうど1年の月日がたち、津波にさらわれた町の様子を再び新聞紙上で見て、2日たった3月13日には「大阪大空襲 今日67年」の記事と、焼け野原になった大阪市内の写真が掲載されていました。どちらもガレキの町になっているのは同じなのですが、焼夷弾爆撃は、燃えるものはすべて焼きつくされているところが違ってきます。

3月13日以後も、大阪近辺への空襲は終戦前日の8月14日まで続きました。

私の家は尼崎市の北部、阪急電車の「塚口」駅の線路沿いにありましたが、6月15日の午前中に警戒警報（敵機接近）が発令され、学校には登校せず家で待機していたのですが、空襲警報も出ずに突然B29の焼夷弾爆撃に見舞われました、隣組の共同防空壕に入っていたのですが、焼夷弾の1発が壕の屋根を貫いて落ちてきて、たちまち阿鼻叫喚の修羅場となり、持っていた本で炎と煙を払いながら外に出ました。あたりは真っ暗になっていて、道路に何本も焼夷弾が突き刺さり火を噴き出していました。家の前まで走って戻りましたが、もう家はすっかり炎につつまれ、家族の安否もわかりませんでした。しかたなく火の来ない田んぼの方へ逃げました。泣き喚く人たち、爆弾の直撃を受けて片腕がなくなった女の子を抱えて半狂乱になっている母親……。子供心にも、これは地獄だと思いました。

小さい町なので逃げる道は1本だけで、幸い家族全員無事に落ち合えたのですが、祖母、両親、1歳違いと、生まれて12日目の弟と私の6人家族で、1日目は焼け残った家のひさしの下で過ごさせてもらい、夜が明けて父が泊めてもらえる家を捜し歩きました。当時は自家用車などなく、電車が不通で親戚の家に行くこともできませんでした。

小学校（当時は国民学校）5年生の私は、落ち込んでいる父と、泣いてばかりいる祖母を励まし、恐怖でオッパイが出なくなった母のために役場に行って、粉ミルクの缶をくださいと泣きついたり、もう必死になっていました。一つ違いの弟は何の役にも立ちませんでした。

そのときの私は、もんぺと白の長袖ブラウス、三角巾や赤チン（消毒薬）などを入れた救急袋、素足に下駄ばき（極端な物資不足で、運動靴が無かった）といういでたちでした。「ほんまに、着の身着のままになってしもた。これからどないしたらいいんやろ」という思いと、「小国民はお国のために頑張るぞ!」という思いが交錯していました。

時代も情況も異なりますが、被災された東北の方々のことを思うと、もう居ても立ってもおれない気持ちになります。非力な私ですが、これから何ができるか、よく考えてみようと思っています。

20012年3月15日 記

つむら あきこ（いこる☆代表）

# いこる草

津村明子



ムラサキカタバミ

野田首相が6月8日の夕方に行った「大飯再稼働」記者会見の全文を読み、がっかりしました。なんという見識の無さ、これが、福島原発の事故から1年以上もたった時期に、首相が国民に向かって表明する言葉かと目を疑いました。

『国民生活を守る……これが私によって立つ唯一絶対の判断の基軸であります』とのことですが、国民は、「再稼働」することによって大きな危機に見舞われるのを恐れて反対しているのです。

『福島を襲ったような地震、津波が起こっても、事故を防止できる対策と体制は整っています……』

また安全神話ですか。まだ大飯にはそのような対策も体制も無いことを国民は良く知っています。

『福島で避難を余儀なくされている皆さん、福島に生きる子供たち、そして不安を感じる母親の皆さん。東電福島原発事故の記憶が残るなかで、多くの皆さんが原発の再起動に複雑な気持ちを持たれていることはよくよく理解できます。しかし、私は国政を預かる者として、人々の日常の暮らしを守るという責務を放棄することはできません……』

何という、うすっぺらで欺瞞に満ちた言い草でしょうか。ここで言う、人々の日常の暮らしを守るとはどういうことでしょうか。福島には、日常の暮らしなど、何ひとつ戻っていないというのに。

『化石燃料への依存を増やして電力価格が高騰すれば、小売店や中小企業、そして家庭にも影響が及びます。空洞化を加速して雇用の場が失われてしまいます。そのため、夏場限定の再稼働では国民の生活は守れません。さらにわが国は石油資源の7割を中東に頼っています。かつての石油ショックのような痛みも覚悟しなければなりません。国のエネルギー安全保障という視点からも、原発は重要な電源であります……』

脅しと、あらゆる言を労して再稼働に突っ走ろうとする野田政権に、早く見切りをつけなければなりませんね。

2012年6月15日 記  
つむら あきこ (いこる 代表)

# いこる草

津村明子



ヨメナ

日本が尖閣諸島を国有化したことに抗議する反日デモが9月15日午前、中国各地で始まり、北京では、日本大使館前に集まったデモ隊の一部が暴徒化し、鎮圧に向かった武装警官と衝突しました。

多くの都市で続発したデモも19日に政府の指示で沈静に向かいましたが、9月18日は中国にとって「国辱記念日」で、反日感情を高める記念日でした。

国辱の内容は、日露戦争に勝利した日本がロシアから南満州鉄道の権益を獲得しており、瀋陽郊外（柳条湖）で線路をわざと爆破、中国側の破壊活動だと見せかけて、約5ヶ月で満州全域を占領しました。これが「満州事変」（1931年）で、今年は81周年になります。

尖閣諸島の領有については、これまで日中両国で決着がつかず、ペンディング状態だったのを、今回知ってか知らずか、「国辱記念日」の直前に日本が国有化を宣言したのが、反日デモのきっかけとなったようです。

この9月29日は1972年に日中国交正常化が実現した日でもあり、日本政府は早急に尖閣問題を平和裏に交渉してほしいものです。

それにしても私自身、日本史、世界史ともに、近代史にあまりにも無知なことを思い知らされました。高校では、歴史の教科書は最後まで進まず、中途半端に終わってしまし、社会人になってからも、ゆっくり世界と日本の関係に目を向ける時間がありませんでした。やっと仕事から解放された今、もう少し頑張りたいと思います。

2012年9月20日 記

つむら あきこ（いこる 代表）

# いこる草

津村 明子



ツワブキ

この原稿は12月14日(金)、機関誌原稿締め切りの1日前に書いています。あさつては、衆院選。この号がお手元に届く頃には、すべてが決定された後……ということになります。

2009年8月30日の衆院選で民主党が圧勝し、政権交代。鳩山内閣の支持率75%、歴代2位の勢いでしたが、翌2010年5月、沖縄県普天間基地の県内移設に反対の県民意識を無視して、名護市辺野古とする日米共同声明を発し、反対の社民党が連立を離脱、鳩山首相はわずか8ヵ月で引責辞任、2010年6月8日に菅直人内閣が成立しました。

翌2011年3月11日、東日本大震災勃発。M9の地震と津波で、岩手、宮城、福島3県に壊滅的被害をおよぼしました。その上に東京電力福島第一原発の1~3号機の炉心溶融<メルトダウン>を引き起こし、多量の放射性物質が拡散。未曾有の大災害となりました(死者1万5844人、行方不明者3451人、避難者は昨年12月15日現在、33万4786人)。

菅直人首相の原発事故対応が国会内外で物議をかもしたことや、2011年7月11日行われた参院選に民主党が敗北した責任をとって、8月26日に辞任し、野田内閣が2011年9月2日に誕生しました。

以後も難問山積で内外の政治は遅々として進まず、内憂外患のうちに年内の解散、衆院総選挙になりました。

これまでに例を見ない小党乱立で、意見が一致する党や政見が見つかりません。各党が様々な主張をする中で、自民党と、元東京都知事にのっとられた「大阪維新の会」は、限りなく右より路線をとり、今後「憲法9条」を放棄して「国防軍」を持つ軍国国家に向かう恐れが大です。

過去の戦争を経験した生き残り世代はここで踏ん張って平和日本を存続させなければなりません。また、震災からの復興が、ほとんど選挙の争点になっていないのはなぜなのでしょう。今後の国づくりの基礎ではないのでしょうか。

2012年12月15日 記  
つむら あきこ(いこる 代表)

# いこる草

津村明子



クロッカス

この3月11日で、「東日本大震災」から早くも2年の月日が経ちました。「復興」は掛け声倒れで何も進んでいないであろうことは、大阪の私たちにもわかりますが、「ほんとうはどうなの?」「ちっとも詳しいこと、わからへんね」というのが本音です。

放送局で働いていたときからの習慣で、朝日・毎日・読売・日経・産経新聞のキリヌキを毎日しているのですが、昨年の秋ごろからは、ほとんど「東日本大震災」に関する記事は見当たらなくなりました。

2年経って、福島の皆さんはどうなってるのか。少しは「明日に」希望が持てるようになったのかと、気がかりでなりませんでした。

唯一の情報源は、時々テレビ各局で放送されるドキュメンタリーでしたが、在阪の放送局制作のものは、1本も無かったように思います。やはり「関西」からは「東北」は遠いところなんですね。

1995年(平成7年)には、「阪神・淡路大震災」があり、復興は早かったように思われていますが、現在でもいろいろな問題を抱えているとのこと。「仮設住宅」から「復興住宅」への住み替えで、地域の絆がこわれて孤立するお年寄りが増えたり、立派に復興されたかに見える商店街は店主に多大の金銭的負担をかけ、お客は来ず……という状態になっていると聞いています。私が見た、最も早く復興したビルは、高くそそり立った兵庫県警のビルでした。

震災当日は、神戸市の中心から電車で20分あまりで着く大阪市はさしたる被害はなく、大阪駅周辺のビルはいつもの輝きを見せていました。けれど、後になってわかったことは、大勢の知人、友人たちを失ったことでした。そして、被災地の景観も、私が大好きだった「阪神間」(はんしんかん)とは違ったものになってしまいました。

地震と津波と原発事故による放射能汚染、という三重苦を受けられた東日本の皆さんに私たちができることは何なのか、一生懸命、考え続けていこうと思います。

2013年3月15日

つむら あきこ (いこる 代表)

# いこる草

津村明子



ミヤコワスレ

日本維新の会共同代表の橋本徹大阪市長は、5月13日、戦時中の旧日本軍慰安婦について「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中でいのちをかけて走って行くときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、慰安婦制度は必要なのは誰だってわかる」と大阪市役所で記者団に語った。いろんな国の軍で活用していたのになぜ日本だけが非難されるのかと述べました(5月13日・朝日新聞)。

また、沖縄の米軍普天間飛行場を視察したとき、司令官に「もっと風俗業を活用して、性的エネルギー解消を図ってほしい」と要請し、相手を戸惑わせました。これに対し、米務省のサキ報道官(女性)は、「言語道断で侮辱的だ」と批判し、慰安婦に関しても、「明白で並外れた人権侵害だ」と批判しました。

5月25日、「日本軍『慰安婦』問題・関西ネットワーク」が、元慰安婦だった韓国女性2人を招き集会を開きましたが、その1人である金福童(キム・ホットン)さんは橋下氏について「妄言を言う人が大阪市長なんて考えられない」と強く辞職を求め、二人は橋下氏との面会予定をキャンセルしました。

大阪市民の私は、最近これほど情けない思いに駆られたことはありません。

6月8日、大阪で「橋下市長の[慰安婦]・性暴力発言を許さず辞任を求める集会」が開かれ、いこ☆るも団体参加しました。69団体が結集。橋下発言の撤回と、市長辞任を求める闘いは、はじまったばかり。がんばりましょう!!

安倍政権も、「苦しいときの神頼み」さながら、口先だけで女性を「よいしょ」しようとしています。「育休3年」しかり、「女性手帳の配布」しかり。でもみんなでお断りしましたよね。女性たちのほんとの希望が実現するまで粘り強く頑張りましょう!!

2013年6月16日

つむら あきこ(いこる 代表)



# いこる草

津村明子



カラスウリ実

いつも読んでいる新聞社系の週刊誌最新号（9月23日発行）に「お荷物社員は誰だ」という記事が載っていました。

お荷物社員の双璧は「50代男性」と「ワーキングマザー」とのこと。「50代男性」は給料のわりに仕事をせず、いつもぼーっと席に座っているだけだとか……。

もう一方の「ワーキングマザー」のほうは、独身女性との間に深いミゾがあるというのです。

私が大阪のNHKに入社したのが1959年。事務職には女性がたくさんいましたが、番組制作の部には女性は1割ほど、しかもすべて独身で、怖いお姉さまばかりでした。私と、同期の女性が二人とも入社2年目に結婚したので、大いに珍しがられると同時に、お姉さま方からは「こんなキビシイ仕事、続けられるかしらね！」とイヤミを言われました。

結婚2年目に「オメデタ」となり、また大騒ぎになりました。当時は働く女性をOL（オフィス・レディ）と呼んでいて、結婚で退職するのが当たり前、寿（ことぶき）退社で、メデタシ！メデタシ！という時代でした。

ちょうど100日の産休中にテレビの本放送が始まり、番組の提案はずっとしていましたが、子どもができてからは男性の同僚たちがよく遊びに来てくれました。

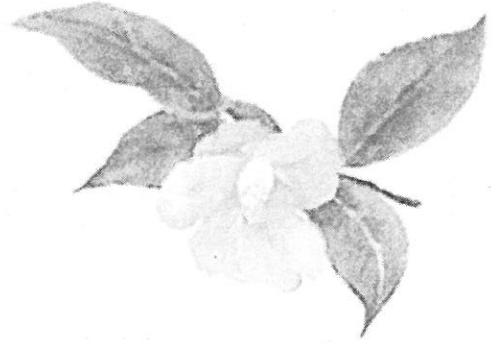
産休が終わって入社してビックリ！ 部室の場所は変わっているし、私の机がありません。副部長さんに「どこに座るんですか？」と抗議して、みんなが物置にしていた机を片付けて、居場所を作ってもらいました。

後で聞いた話ですが、東京の局でも産休明けで入社した女性アナウンサーが、出退勤を記録するタイムカードが所定の場所になく、泣きながら立ち尽くしていたそうです。

2013年9月16日

つむら あきこ（いこる 代表）

# いこる草



ヤブツバキ

津村明子

国家機密を漏らした公務員らを厳罰に処す「特定秘密保護法案」が、11月28日夜の衆院本会議で、自・公・みんなの党などの賛成多数で可決され、参院でも12月6日に混乱の中、可決されました。将来の日本を左右する最大の出来事です。太平洋戦争直前の日本に戻ったような危機感に襲われてしまいました。

太平洋戦争は1941年12月8日に勃発しました。この年の4月から、これまでの小学校は「国民学校」に変わり、教科書も一変。1年生が数を数えることから始まる算数の教科書は、今ではこども・はな（花）・どうぶつ（動物）の絵などですが、当時はヘイタイサン（兵隊さん）・グンカン（軍艦）・タイホウ（大砲）などでした。

その頃、NHKの「ラジオ歌謡」ではやった歌は次のようなものでした。

肩を並べて兄さんと  
きょうも学校へ行けるのは  
ヘイタイさんのおかげです  
お国のために  
お国のために戦った  
ヘイタイさんのおかげです

そして、わたしが1年生に入学した12月8日（1941年）に「太平洋戦争」が勃発しました。国民はその日の朝の新聞で、日本海軍がアメリカの軍港「真珠湾（パールハーバー）」を奇襲し、多大の成果をあげたというニュースを知りました。

新聞には9人の海軍軍人の写真が大きく載りました。特殊潜航艇で体当たりして敵艦を沈め、大戦果をあげたのです。9人の戦死者を「九軍神」とあがめ、国民は涙ながらに大勝利に酔いしれました。アメリカの軍艦を沈めたのは、ほんとうは海軍の航空隊だったのに。

戦後になってわかったのですが、「軍神」は10人のうち1人が艇から放り出されて捕虜になり、9人になったとのことでした。

2013年12月15日

つむら あきこ（いこる 代表）